

奥田務
さん

J・フロントリテイリング相談役

前葉泰幸

津市長

変化に対応できるものが生き残る

平成29年4月18日、J・フロントリテイリング株式会社相談役の奥田務さんを津市ビジネスサポートセンター開設記念セミナーにお迎えし、ご講演いただきました。大丸と松坂屋が経営統合したJ・フロントリテイリングにおいて社長・会長兼最高経営責任者をお務めになった奥田さんに、津市にある企業のサポートなどについて前葉泰幸市長がお話を伺いました。

撮影/津市ビジネスサポートセンター

市長 奥田さんは津市東町のご出身です。お祖父様は津市で証券会社を創業なさった方であり、昭和14年にお生まれの奥田さんは私の母と津高校の同級生に当たられます。ご縁を感じますが、津の経済人からすれば神様のような方でいらっしゃる。

ご自宅は昭和20年の空襲で焼けてしまったのですね。

奥田 直前に疎開していました。

市長 慶応義塾大学法学部に進学され、卒業後は大丸さんに入社なさいましたが、ご自身の強い意志でしょうか。

奥田 私が大丸に入社した頃は、百貨店が小売りの王者で、大丸は小売業売上日本一でした。大学を卒業するときに、『流通革命』(林周二著、中央公論社、1962年)という本が大ベストセラーになり、小売業が日本の生産体系を変えるという内容に非常に興味を持ちました。

また、大丸は当時では非常に珍しく海外に店を構えていました。国際化が早くすでに香港に店舗をオープンしていたことも、この企業は面白いんじゃないかと入社した理由の一つです。

市長 入社後は、京都店からスタートされました。私も京都市役所に2年間勤務し、四条高倉の「大丸さん」でよく買い物をしましたが、興味深いのは、京都店で外商のご担当だったことです。なかなか深いものがあったのではないですか。

奥田 大丸は今年で創業300年になります。京都の伏見に業祖が呉服屋を開いたことから、京都市民の皆さんからは「大丸さん」と呼ばれて可愛がっていただきました。配属された外商というのは、売り場でじっとお客さまを待つのではなく、こちらからお客さまをお訪ねして買っていただく、いわば商売の原点です。そういう意味で、小売業のスタートとしては非常に良い勉強をさせていただきました。

市長 その後は海外留学もされています。1974年のことですが、当時のアメリカはどうでしたか。

奥田 経済的にも政治的にもすごい時代でした。アメリカのプライドと良さが残っている時で、何でも教えてやるという懐の深さがありました。80年代になると日本が競争相手として見ら